

# 2002 年度 経済原論 : 期末試験

2002 年 7 月 10 日 (水) 実施

## < 解答・採点基準 >

### [第 1 問]

誤っている

交通事故死の数 = 交通事故死亡率 × 交通事故数 (2 点)

(ただし、交通事故死亡率 = 交通事故死数 / 交通事故数)

シートベルトの着用義務化は交通事故死亡率 (右辺第 1 項) を低下させるが、安全運転を行うインセンティブを阻害するので、交通事故数 (右辺第 2 項) は増える可能性がある。(3 点)

誤っている

法的な禁止は麻薬の供給曲線を左へシフトさせる。(5 点)

しかし、その影響は需要曲線の形状によって異なる。需要曲線が価格に対して非弾力的な (垂直に近い) 場合、法的な禁止の影響の多くは価格の上昇として現れ、それほど市場は縮小しない。結果として、麻薬供給者の収入は増大する。(5 点)

誤っている

一般に、消費税の負担は消費者と生産者の双方に帰着する。(5 点)

ただし、負担の割合は、需要曲線と供給曲線の (価格に対する) 弾力性によって異なる。供給 (需要) 曲線の方が価格弾力的な場合には、消費 (生産) 者の負担が多くなる。(5 点)

[ 極端なケース (需要量が一定のケース) では、消費 (生産) 者のみが負担することもあるという指摘も可 ]

### [第 2 問]

A 国が X 財の生産に絶対優位:  $A_X < B_X$ 、Y 財の生産に絶対優位:  $A_Y < B_Y$

B 国が X 財の生産に絶対優位:  $A_X > B_X$ 、Y 財の生産に絶対優位:  $A_Y > B_Y$

A 国が X 財の生産に比較優位:  $\frac{A_X}{A_Y} < \frac{B_X}{B_Y}$ 、 $\frac{A_Y}{A_X} > \frac{B_Y}{B_X}$ 、 $\frac{A_X}{B_X} < \frac{A_Y}{B_Y}$ 、 $\frac{A_Y}{B_Y} > \frac{A_X}{B_X}$  など

A 国が Y 財の生産に比較優位:  $\frac{A_X}{A_Y} > \frac{B_X}{B_Y}$ 、 $\frac{A_Y}{A_X} < \frac{B_Y}{B_X}$ 、 $\frac{A_X}{B_X} > \frac{A_Y}{B_Y}$ 、 $\frac{A_Y}{B_Y} < \frac{A_X}{B_X}$  など

絶対優位と比較優位の説明 (各 3 点、 で説明してあっても可)

の条件は同時に成立し得るが、 は同時に成立しない (4 点)

[ 比較優位は必ずあるという指摘のみの場合は 2 点 ]

### [第 3 問]

ある意思決定を行うとき、選択されない利得のこと。その意思決定の犠牲にあたる。

直接的費用として、分娩費や教育費などが挙げられる。

機会費用としては、女性の賃金収入が代表的である。

ただし、機会費用に触れていない場合は 0 点。

女性の賃金が上昇したため、出産・育児の機会費用が高くなった。

「仕事や余暇に時間を割けなくなるから」という解答は 2 点。それは昔も今も同じなので。

「機会費用を重視する人が増えたから」という解答も 2 点。何故増えたのかわからないので。

女性の賃金が上昇したため、家事の機会費用が高くなった。

と同様の理由で、「家事に時間を取られずに済むから」というような解答は 5 点。

同じように、「機会費用を重視する人が増えたから」という解答も 5 点。

### [第 4 問] (いずれも図示していない場合には 2 点減点)

P の水平線と需要曲線の交点から横軸に垂線を引いたときにできる長方形の面積。

収入が増える場合。(5 点)

需要曲線の価格弾力性が高く、水平に近いほど、需要が大きく増加し、収入も増える。(5 点)

[ 「需要 < 供給のとき」や「価格が均衡価格よりも高いとき」は 5 点のみ。 ]

需要曲線が左下方へシフトする。(5 点)

価格が低下するか、需要量が減るか、またはその 2 つの組み合わせの結果、収入が減る。(5 点)